

2024年12月

お客様各位

株式会社エム・エル・ティー

内在性コントロールの検出 実施条件変更に関するお知らせ

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます

犬バベシア、犬ヘモプラズマ、猫ヘモプラズマ、FIV、FeLVの遺伝子検査において内在性コントロールとして犬と猫の血液中のそれぞれ β -アクチン、FG3PDHの検出も同時に行ってまいりましたが、過去約11,000検体の検査では、凝固していない血液サンプルすべてにおいて内在性コントロールが検出されました。そのため、内在性コントロールの検出を取りやめることが可能と判断し、2025年1月より凝固していない血液に関して内在性コントロールの検出の実施を取りやめることといたします。

2025年1月より、凝固していない血液に関して β -アクチン、FG3PDHの結果の報告書への記載は無くなりますので、ご承知おきください。

ただし、過去に凝固していた血液において内在性コントロールの検出がなく、正常にDNAの抽出がされていないと思われる例が確認されているため、凝固していた血液においては引き続き内在性コントロールの検出の実施をさせていただきます。

敬具